

希少植物等保全対策検討委員会（第1回）議事概要

| | |
|-----|--|
| 日 時 | 令和5年6月12日（月） （現地確認）10:30～12:00、（意見交換）13:00～15:00 |
| 場 所 | カルストテラス（高岡郡津野町芳生野4921-48） |
| 出席者 | 石川愼吾委員長（高知大学名誉教授） 重山陽一郎委員（高知工科大学システム工学群教授） 中澤純治委員（高知大学総合科学系地域協働教育学部門准教授 ※リモート参加） 前田綾子委員（高知県立牧野記念財団主任研究員） 鴻上泰委員（土佐植物研究会会長） 谷脇幸秀委員（津野町商工会会長） オブザーバー・津野町観光推進課長（代理出席：川田明男課長補佐） |

【委員の発言】

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>（開会あいさつ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四国カルスト県立自然公園の整備については、平成29年に、誘客促進など観光振興を目的とした「天狗高原・四万十源流プロジェクトチーム会」が発足・検討を開始。令和2年3月に津野町が「四国カルスト県立自然公園整備基本構想」を策定。この構想に基づく町から要望も踏まえ、令和3～4年度にかけて、県が整備を行ったもの。 ・ 整備後は、県内外から多くの訪問があり、地域の観光資源としての評価も高まりつつある。自然探勝路についても評価する意見もある。一方、今回の整備に関して、希少植物等の保全への不安や自然景観に影響を与えた、という厳しい意見もある。 ・ 希少植物等の保全や四国カルストの景観保全の観点から、今回の整備に伴う課題を踏まえ、今後、県として取り組むべき具体的な方策について検討いただきたい。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 議論を進めるに当たり、バックグラウンドとなる自然資源・自然のめぐみをいかに劣化させずに将来の世代に引き継いでいくかという観点から、意見を述べたい。SDGsは三層構造で、人間の社会・経済を支える自然資源が底にある。今回問題になっている草原の自然は、陸の豊かさの一部を担う非常に重要な自然資源。 ・ 国の新しい「生物多様性国家戦略」が出され、それを踏まえ「生物多様性こうち戦略」を今年度改定予定。その中では、保護地域以外で生物多様性に資するエリアを指定して守ることで自然資源が劣化しないよう再興していくというOECDの考え方も目玉となる。その考え方で、四国カルストのような、人が手を入れることによって維持されてきた半自然草原が重要。 ・ 今回の問題は、将来の世代にわたって自然資源を残し、増やしていくことが背景にある問題と捉え、議論いただきたい。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 自然探勝路の経緯と概要について説明（資料1、参考資料1） |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 待機所はバリアフリーに関する基準に基づいて設置されているのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 「高知県ひとにやさしいまちづくり条例」に基づいたもの。条例では、勾配差があるところは最低50mごとに待機所を設けることとなっているが、探勝路では20mごとに設けている。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> バリアフリーの道以外の道はどのような方針で設置されたのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 津野町の基本構想に記載のあったEバイクの活用の視点を取り入れた。町が基本構想を策定するに当たっては、長時間観光地に滞在することを目的とした計画を策定するための県（観光振興部）の補助金を活用。長時間滞在・地域全体に経済効果を生む策として、愛媛県の姫鶴平で導入されているEバイクの活用事例を参考に盛り込まれたと聞いている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> Eバイクの活用により滞在時間が長くなり経済効果が高くなることが分かっていたのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 補助金のルールとして経済効果に関する仕組みがあり、それらに合わせて基本構想が策定されたと聞いている。町は、カフェやレンタサイクル、ガイド以外の案内など、多くの方が楽しみ、滞在時間が延びる手法について、基本構想策定の中で検討したものと認識。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 姫鶴平での滞在時間延長や経済効果の結果が出ており、それを受けての話なら納得できるが、姫鶴平が実施しているという理由だけというのは理解できない。実際、滞在時間が延長していたり、経済効果が上がったりしているのか。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 津野町での実績はまだ分からないと思うが、愛媛県の実績はあるのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 愛媛県の実績をどれだけ参考にしたかは承知していない。令和4年度のカルストテラスでのEバイクの利用実績は207件と聞いている。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 滞在時間が延びたかどうかは、Eバイクの活用開始以前のデータがあれば比較できるのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> Eバイクだけでなく、テラス内カフェの営業が開始してから利用者が増え、売り上げも随分上がったと聞いている。以前のカルスト学習館は、植物に興味がある方に立ち寄ってもらっていたが、リニューアル後からは、 |

| | |
|--------|---|
| | 多くの方に利用いただき観光の要素も含めた施設となっている。 |
| オブザーバー | ・テラスの利用者は令和4年度が5万人程度で、前年・前々年度から増えており、一定の効果があつたと認識。四国カルスト自体の入り込み数も、レジカウントになるが12万人超え。 |
| 委員長 | ・宿泊客の方はどうか。満員でなかなか予約が取れないと聞いている。 |
| オブザーバー | ・令和4年度が7千人前後だったと思うが確認する。(※補足：令和3年度は7,907人、令和4年度は9,627人) |
| 委員長 | ・Eバイクを活用した道とすることで利用者増加等の効果があつたかという検証はできるのか。他の施設も整備されたこともあるので、さび分けしてデータを取るの難しそう。 |
| 事務局 | 希少植物の保全や取り巻く環境について説明（資料2） |
| 委員長 | ・内容が多岐にわたっている。特に探勝路についてはいろんな意見がある。観光を目的とした予算を使い、長期滞在でお金を落とす経済の面が原点なので、希少種をはじめとする自然資源の確保・保全、景観の保全とバッティングする複雑な問題となっているが、どのような考えか。 |
| 委員 | ・バリアフリーのための整備のあり方・幅員・待機所設置などについて、条例を見たが、そもそも自然公園はこの条例に準拠する必要がある場所なのか。条例の対象の施設の中に公園があるが、都市公園等が列挙されている。自然公園の種類は公園となるのか。 |
| 事務局 | ・設計の段階で、条例所管部署に自然公園という位置づけで確認を取っている。 |
| 委員 | ・まずは自然公園がこのルールを守る必要のある場所かを確認すべき。訓練された人でないと入れない手つかずの自然もあれば、誰もがハイキングできる山の麓などのコントロールされた自然もある。それぞれどの程度に安全にすべきかは異なり、道もその整理に応じてつくられるもの。今回の探勝路についてどうすべきかは本委員会での議論となるが、どういう位置づけか整理の上議論し、それに応じて自然との距離感をどう設計するかが重要。 |
| 委員 | ・自分の立場からすれば、幅員も結構やったなという印象。観光の弱者優先で作られた道なのでこのような形になったのだと思うが、幅員2メートル |

| | |
|--------|---|
| | <p>以上あるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同僚と話をした中では、観光の面からは、大半が探勝路を元に戻せとの意見であった。 ・舗装を剥いで本当に元に戻るのか、どのように付き合っていくのかということが重要。1～2年では元に戻らず相当かかる。どう活用し、どのように自然に戻していくのかを早く議論しないと、現状で良いという意見が多くなることで、失われたものもそれでよかったと風化する。どう自然に戻していくのか、地元住民がどう生かせるのか、不安。 ・自然に戻すでなくとも、自然に近づけることができるのでは。現状は、道があまりにも大きすぎる。国道などの歩道の幅は、シニアカーなどですれ違いができない場合が多いが、それで生活している。自然公園の中で、なお倍以上の道が必要だったのか疑問。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・探勝路を見て、ここまで利用客に優しくしなくてもよいかなどは思うが、今の印象でしかない。町内外から多くの観光客が来ても怪我のないような道にしようとするところのような結果になるだろうから、どの程度を狙うかという方針がまずあって、それに沿った作り方という順番と思う。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・最初に入ったところはEバイクは一方通行なのに道が広い。見晴台の方は、一方通行なのか分からなくなる。バリアフリーのための道なのか、Eバイクの専用の道なのか。一方通行なのかそうでないのか、道の趣旨が混雑しており、そのため広い道が必要となったとも感じる。その辺りの定義について早く整理しないと、利用者が避ける・危なかったという経験をされるのではないか。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに全部を元に戻すということはできないから、まずは、3者（歩行者・Eバイク利用者・車椅子利用者）がどういう利用しているのかについて、コンサルタント会社等に依頼してデータを取ることはできるか。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・やり方はたくさんある。EバイクならGPSをつけることで、どんな動きをしているか分かる。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・Eバイク他全ての利用者の足取りを確認というのは難しいが、行うかどうかや方法について検討したい。Eバイクについても、貸出しの利用状況は把握しているが、利用経路の把握についても考えたい。 |
| オブザーバー | <ul style="list-style-type: none"> ・委員の意見に同意する部分もあるので、県と協力しながら一緒に考えていきたい。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・条例に則る必要があるかについて、次までに確認して提示いただきたい。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・手前の道は、Eバイクが通る前提で作られた道であり、下って県道に出た道がバリアフリー道として車椅子の方などが使う道なので、傾斜に配慮し緩やかに作っている。条例を踏まえて整備したと説明したが、もう一度、詳細を確認の上、報告する。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・希少種に関してはどうか。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・4・5月と調査をした。4月末に調査したときはほとんど分からなかったが、5月末の調査時には、道沿いにヒメユリもササユリも確認できた。 ・4月末の調査では希少種は確認できないということが理解されないまま工事が行われた。経緯を見ると、設計までに1年程あったにもかかわらず一度も相談はなく、調査もされていない。また、去年は国のレッドデータブックに関する調査を行ったりデータをまとめたりしていた時期であったので、データがあったし、調査もできたのに残念。 ・工事前・後の比較ができない状態なので、ガイドの方が「希少植物がなくなった」と言っていることに対して、証拠を出すのも難しい。適切に調査をしていたら、希少植物のあるところを避けることなどもできた。 ・(工事と希少種の調査については) ルールがなく、他の場所でも同じことが起こりうる。今回は地元の方が声をあげ、このような検討がなされているので良い方向に持っていかなければならない。そうでないところでは、影響が分からないまま希少種がなくなってしまうので、今回の議論を通して仕組みそのものを構築したい。 ・道の脇に砂利が置かれており、砂利と笹原の間に猶予がなく、草刈りをするにも難しくなっている。そのあたりだけでも改善し、よい環境が作れるよう工夫できないかと思う。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・剥いだとして、元に戻るのにどれくらい時間がかかるのか。現実的なテクニカルの問題としても植物の専門家が関わってくることになると思うが、その辺りはどうか。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・段差が少ないところの砂利を除けて、どのように植生が変わっていくかだけでも確認することはできるのではないか。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・復元の場所として、実験的にやってみてはどうかということか。 ・実験的なことは検討委員会が終了する前でもできるか。例えば、最終的な結論が出る前でも、議論が煮詰まった段階で実施する可能性があるか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・少し時間をいただき、できることについて検討していきたい。現時点で多額の調査費があるわけではないので、どのような形で実験できるか、委員会で何度か議論いただき方向性を決めていただければ、対応したい。 |

| | |
|-----|--|
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 植物のモニタリングは時間がかかるので、やるとすれば早い方がよい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 補正予算という手もあるが、調査費用の規模も分からないので、その点も含めて、委員会での議論を踏まえて対応したい。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 委員が懸念しているのは、植物サイドは人間が思っているようにすぐに反応しないので、実験は早いほうが良いということ。実験なので、既存の予算の中で決める、スポット的に行うなど、いろんな実験のデザインの仕方がある。委員と相談し、予算の範囲内で実験のデザインをしてもらう方法もあるので、検討いただきたい。 バリアフリーの道に関して、体の不自由な方も自然を楽しむ権利があるという考え方が当然ある。自然のめぐみ、いわゆる生態系サービスの中には、①供給・②調整・③文化的と、3つを支える④基盤サービスの4つがあり、③文化的サービスは、レクリエーションや自然を楽しむという広くいろんな人に保障された権利であるが、それが貴重な自然を壊してまで保障されるべきかという、難しい議論がある。 人が手を加えて維持してきた自然である二次的自然にも貴重な自然が残っており、生物多様性を次の世代に繋げていくためにも重要な植生の一つ。全国的にも、そのことを経験的に理解している年配の方たちが一生懸命保全していた結果がある。その二次的自然の価値の保全と、それをある程度壊して文化的サービスを楽しむ人を広げていこうというのは、どちらも正論だが、どこかで折り合いをつけ、二次的自然をどこまで改変してよいか、ここは守ってほしい、ということ、この場で議論しなければならない。どう思うか。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 難しいところ。天狗高原は二次的草原の代表的なところだと思っている。大本は森林だったのだろうが、そこに人が手を加えることで維持されてきた。写真を撮ることも多く、景観がとても重要。その意味で、探勝路ができた今は全く絵にならないので、何とかならなかったのかと思った。 年数が経過することで、これはダメだ、ここは何とかならそう、というところが分かってくる。どう経過していくのか、調査を進める。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> どこで折り合いをつけるのかということで、探勝路のどこを元に戻し、どこを残すのかという議論になってくる。ここがこの委員会の肝なので、その辺の基準について、アンケートを取るなどして一般の方の意見も参考にしながら議論していきたい。ただし、未来の世代に生物多様性の価値のある場所をどれだけ残せるのか、という点は譲れない。探勝路があることによっても十分残せるということであれば、探勝路を大部分残す・半分くらい残す、という話になる。その辺も含みながら考えていただきたい。 一般の方や訪れた人の意見について、アンケートを取って集約する際に、 |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>適切な取り方や集計の仕方について、委員に意見を伺いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できる限り多くの方の意見が集約されることと、質問項目ができるだけ中立であることが重要。調査表をまた見せていただきたい。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・次回の委員会までに、このような設問は良くない、この方が良いなど、問題点や改善点を含めた意見いただきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・承知した。また、本件を検討する本質的な部分として、津野町や高知県の議会をきちんと通っている事業であること。これらのプロセスの中で、なぜこのようなことが起きたのかを検証しないと、今後同じようなことが起こってしまう。今回は県の事業だが、元となったのは津野町の計画である。そうすると、市町村の民意の話を、県でどのような優先順位とするのかという点も難しい問題。また、再整備事業だったため、新規整備ほど環境配慮に注意を払わない、環境と経済の話が切り離された政策決定の流れとなったのではないか。自然資源を活用した観光施策は環境に配慮しないと元も子もないことは明らかなので、影響を及ぼし合うという理解の元でやらなければならない。 ・環境か経済かの二項対立構造にはしたくない。今回は、自然資源への配慮が足りなかった開発となってしまったと思うが、経済振興や福祉の話も重要なので、どのように折り合いをつけるか、よりよくするためのアイデアを出していきたい。 ・碎石の実験を早くという話は、私も賛成。単に実験するのではなく、教材とし、子どもたちと一緒に碎石を除去したり、なぜこれがダメなのかを学ぶ機会にするのもよいのではないか。 ・ここからどれだけ取り戻すかをこの会で考え、環境と経済の好循環をもたらすような制度設計のアイデアを出せればと思う。全国でも、観光の売り上げの一部を環境保全に回す仕組みが導入されているので、経済開発と環境の関係を見直すきっかけとなればよい。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・議会を通った経緯は検証する必要があるので、議会でどんな議論がなされ、どういう議論がなされなかったのか、確認したい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・議会で、どのような意見交換・質疑がなされたか確認し、次回報告する。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性こうち戦略」の理念が生かされなかった経緯も明らかになる。経済と環境という視点において、足りなかった点・今後の改善点を検証し、整理いただきたい。 ・自然資源を壊さずに経済的な利益を上げ、その利益から環境を維持するための資金を回している仕組みで、モデルケースになるものはあるか。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすいところだと、屋久島などの世界遺産に登録されたところ。多くの観光客が来て環境資源を棄損してしまうことが増えたことを受け、地元の方がルールを適用するとともに、観光での利益を自然資源維持に使うこととし、どちらも重要であることを仕組みとした事例は多くある。自然資源はフリーライドできてしまい、観光客は便益を得て維持コストを担わないことから、入園料や入山料を徴収する公園の例もある。今回の件がどこまで該当するか分からないが、「環境が良い」と利益を受ける人たちと、「環境を維持し守って、地域の経済にも繋げていこう」という人たちの間でお金を回していく仕組みを考えてもよい。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・二次的な自然資源を使って観光・経済に結びつけているところで、四国カルストの自然資源の保全と似たような事例があれば、次の会議で紹介いただきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・探しておく。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・秋吉台（山口県）には散策路がたくさんあり、山焼を行うため道幅は結構広いが、全て舗装されていない自然の道で、道そのものが生物多様性の保全に役立っている。舗装してしまうと植物が育つ場所がなくなり違和感が出てくる。舗装を剥いで元に戻す、としたときにどうしていけばよいか、考えていただきたい。今後そのような意見が強くなったときのために、他の地域での草原維持の手法について知見を集めておく必要がある。例えば、秋吉台の舗装していない道が壊れたときには、ボランティアが来て補修している。四国カルストでも、ファンクラブをつくり、ボランティアを募ったときに集まるような体制ができれば、地域も盛り上がるし、価値を広めるためのツールにもなる。自然の価値は守ってみないと分からない。守っている人の中には、こんなに価値があるのに、と忸怩たる思いをしている人が多くいると思うので、そういう環境教育が必要だと感じている。 ・植物の専門家にとっては、今回の問題は、一般の方に対して生物多様性や自然の価値を広める活動として示唆的だと思う。アンケートを取ることとしているが、回答する人のバックグラウンドは多様であり、自然の価値を知っている人とそうでない（守っていくことを知らない）人がいる。その辺りのことについて意見いただきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろあるが、絶滅危惧種の調査をしても、植物に詳しい人でも、たくさんある植物となると急に価値や関心がなくなるような気持ちになることがある。一般の方にとっては、すごくレアだということが、お金の価値と捉えられるので、希少価値が価値というのが分かりやすい。 |

| | |
|-----|--|
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 二次草原の価値は、ヒメユリやササユリ等の目立つ植物だけというものではない。目立つ植物はアピール性があり一般の方に理解してもらうための良いツールだが、他にも植物はある。ヒメユリやササユリを守ることで他の植物も守られる、という視点を、一般の方にうまく伝えていく必要がある。その辺りに対する意見はどうか。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 山焼きがうまくできてない。毎年実施できれば、一面ササユリやヒメユリになったりするようになると思う。現状は、山焼きを一部の人たちの狭い範囲で行っているが、参加型にすることで、(一般の方にも)自然保護や景観保護に関わってる気持ちが芽生え、新しい植物・多様な植物が出てきていることが理解しやすくなるのではないか。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 天狗高原を守る会のようなボランティアをつくってやるのはどうか。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 難しいとは思う。時々死者が出たりするので注意して行う必要がある。また、今は植物のことしか話をしていないが、動物にとって影響がないのかという点もある。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 他の草原では、一般市民を巻き込みながら山焼きを行っているところも多い。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 大学でも山焼きはよいテーマ。一般の方も見たい。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 鳥取大学など、マニュアルを作り、事前のレクチャーを行った上で参加させている例は日本にも多くある。山焼きが広まっていないのは、限定的に開催されていたからであるので、その辺りの努力が必要になりそう。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 昔天狗高原で見られた植物で、今見られなくなってしまった植物はたくさんある。草原を広げることで復元される可能性が十分ある。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 地元のキーパーソンとなる方と議論していただければ。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> Eバイクの利用について、構想策定時は何件くらいの利用を見越して導入されたのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 津野町の基本構想策定時のEバイク活用の想定は1年間に288件。目標を下回っているが、カフェの利用などで収益を上げていくとのこと。 宿泊施設とカフェが収益の要。基本構想策定に活用した県の補助金でも、単に収益増であればよいということではなく、収益の見込みが人件費などを上回るかという点で審査していたと記憶している。 |

| | |
|-----|---|
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・外来種に関して、津野町としては、オオイヌフグリ・ミチタネツケバナは、工事を行っていない他のエリアでも確認しており、ヒメオドリコソウや（外来種でないが）キツネアザミは分からないとのこと。県としては、オオイヌフグリ等は、工事箇所以外でも確認があったため工事に起因するものではないと考えられ、ヒメオドリコソウ等は、もう少し確認したいとのこと。 ・人が歩くところは必ず外来種がある。新たに生えてきたものが生態系を脅かすような特定外来植物（侵略的外来種）だった場合には、すぐに対応しなければならないので、そのためのモニタリング体制を取っておいた方がよいと県に申し入れた。異変があったらすぐに対応するという体制があれば、結果的に予算をあまり使わない。外来種対策で後手を踏む例は国などでもよく見かける。今は変なものは生えていないが、そのような体制は必要。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然公園の管理は津野町に委託しているので、探勝路沿いでの定期的なモニタリング実施について、津野町と調整・検討していきたい。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・事務局がまとめていた論点について最後に少し補足し、今後取り組まないといけないことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ①消失した希少植物の回復への取組 ②希少植物の盗掘に関すること ③外来種により希少植物が駆逐されることへの懸念や盛り土の除去 ④山焼きの実施について ⑤探勝路に関しては、 <ul style="list-style-type: none"> A) 探勝路・石積み・不自然な石灰石・路肩の砕石など、自然公園の景観を損っていることやこれらの撤去については、まず砕石を撤去して実験をデザインしてみるという具体的な意見がでた。 B) バリアフリー化に対する意見としては、文化的サービスの享受と自然資源を守ることをどのように折り合いをつけるか。 C) 探勝路利用の安全性については、条例に関して事務局で整理して次回提示いただく。 ・次の委員会では、これらの論点について、新しい資料を元に議論を進めていきたい。 |